倶多楽の火山活動解説資料（平成25年５月）

札 幌 管 区 気 象 台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成 19 年 12 月１日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図１-①、図３～10）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

９日に現地調査を実施しました。日和山山頂爆裂火口の噴気温度は140℃で、2007年以降、高温の状態が続いています。赤外熱映像装置[1)]による観測では、日和山山頂爆裂火口、大湯沼爆裂火口及び地獄谷爆裂火口の地表面温度分布は所々に高温の部分が見られ、これまでと比べて変化はありませんでした。また、噴気や火口の状況に特段の変化はありませんでした。

大正地獄は、2011年以降満水の状態が続いており、熱水がごく少量流出しているのを確認しました。

1）赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・地震及び微動の発生状況（図１-②）

火山性地震及び火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図１-③、図２）

GPS連続観測及び繰り返し観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(http://www.jma-net.go.jp/sapporo/)や気象庁のホームページ(http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html)でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号　平23情使、第467号）。

次回の火山活動解説資料（平成25年６月分）は平成25年７月８日に発表する予定です。

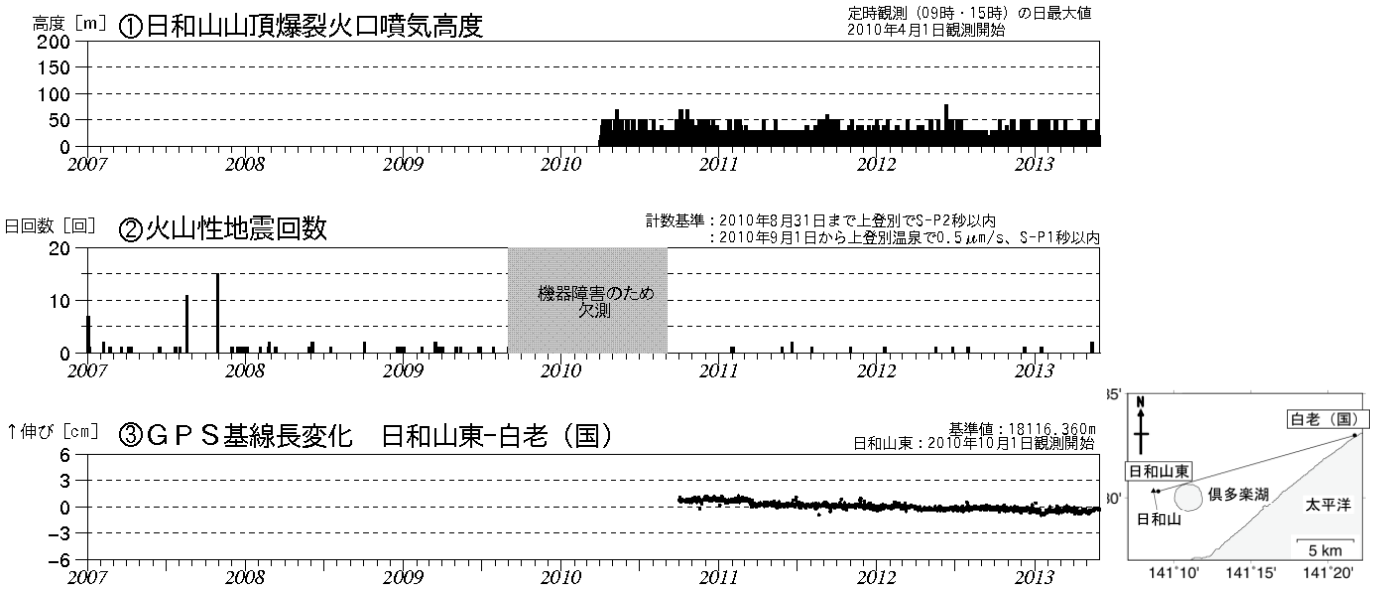

図１　倶多楽　火山活動経過図（2007年１月～2013年５月）、GPS連続観測点配置図
・③のGPS基線は右図に対応しています
・（国）：国土地理院

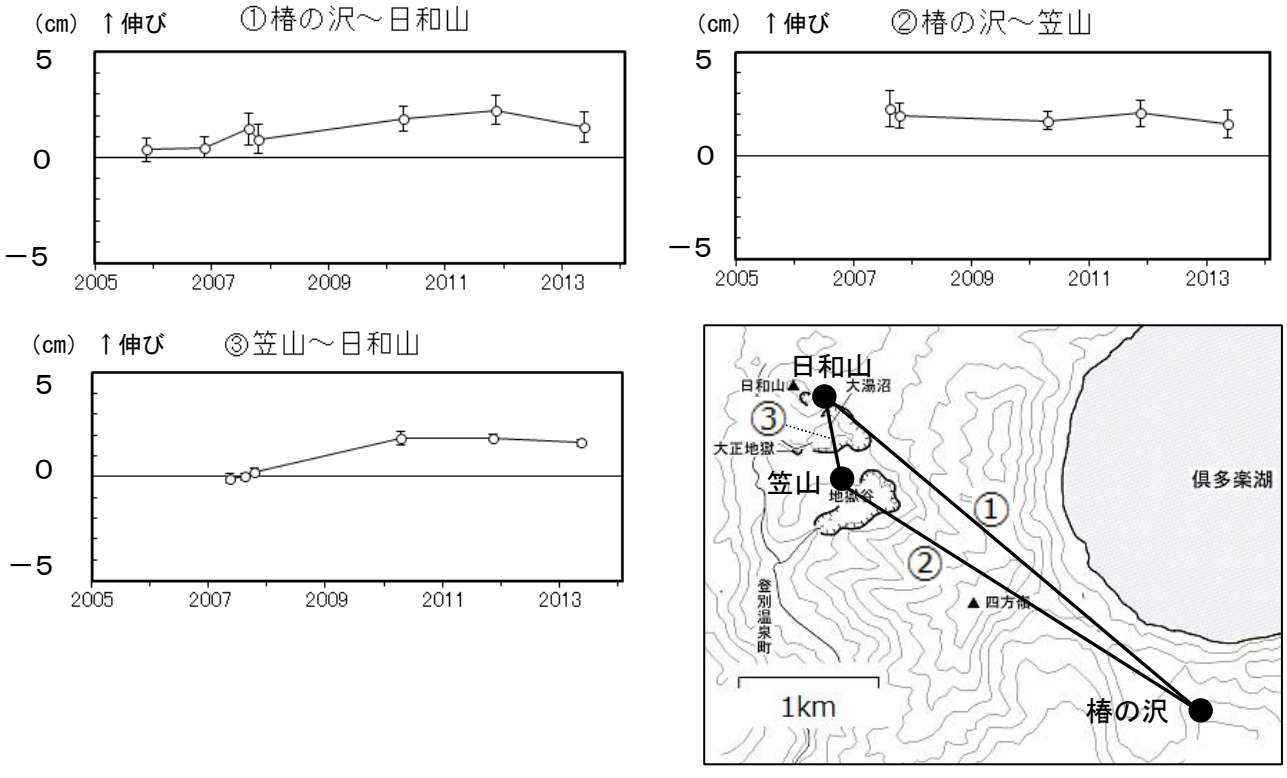

図２　倶多楽　ＧＰＳ繰り返し観測による基線長変化（2005 年 11 月～2013 年 5 月）
①～③は右図の①～③に対応しています。

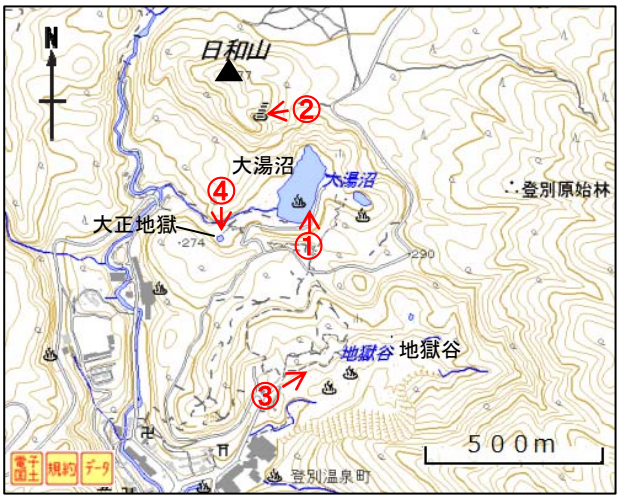

図３　倶多楽　日和山・地獄谷周辺図と
写真の撮影方向（矢印）

図４　倶多楽　大湯沼及び日和山の状況
（図３−①から撮影）

図５　倶多楽　日和山山頂爆裂火口北西噴気孔
の状況（図３−②から撮影）

図６　倶多楽　地獄谷の状況
（図３−③から撮影）

図７　倶多楽　大正地獄の状況　（図３−④から撮影）

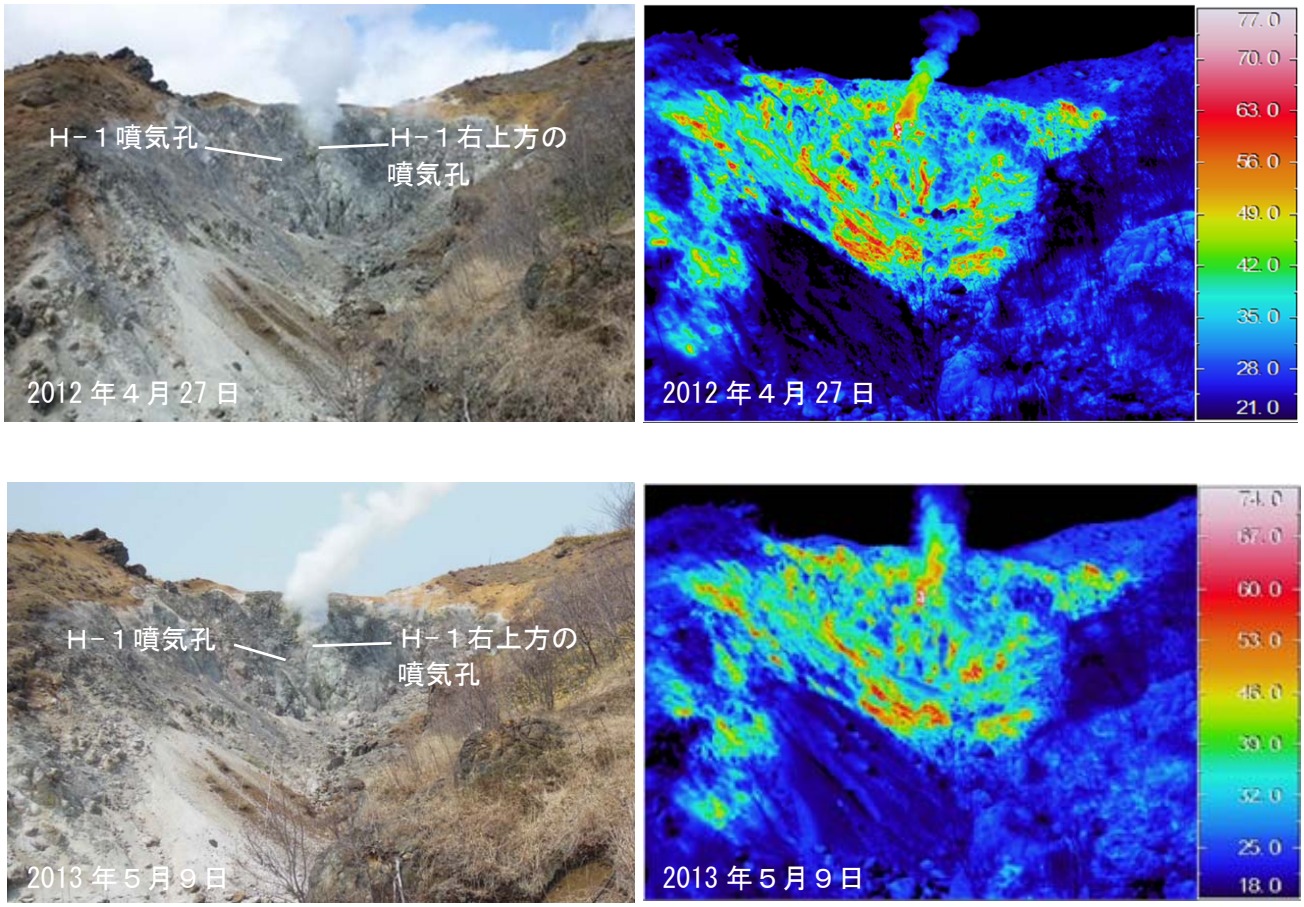

図８　倶多楽　日和山山頂爆裂火口の地表面温度分布[1)]（図３-②から撮影）

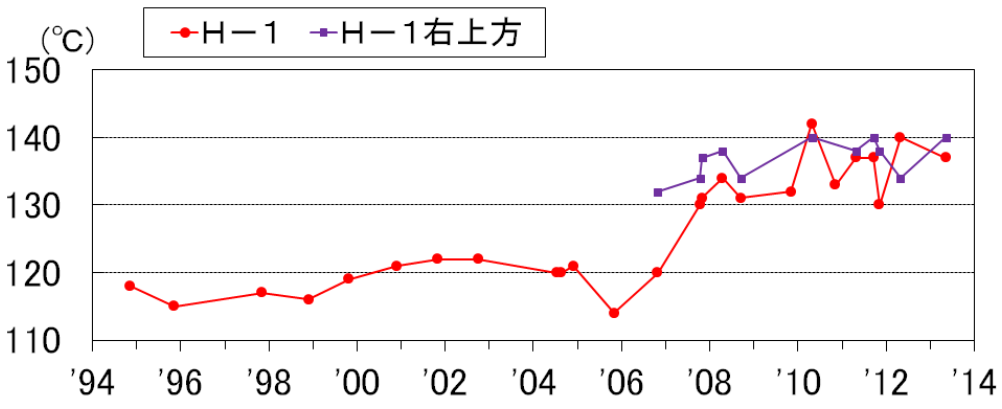

図９　倶多楽　日和山山頂爆裂火口北西側噴気孔の噴気温度の推移（1994 年～2013 年）

図10　倶多楽　414m山から見た日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（５月17日、414m山遠望カメラによる）

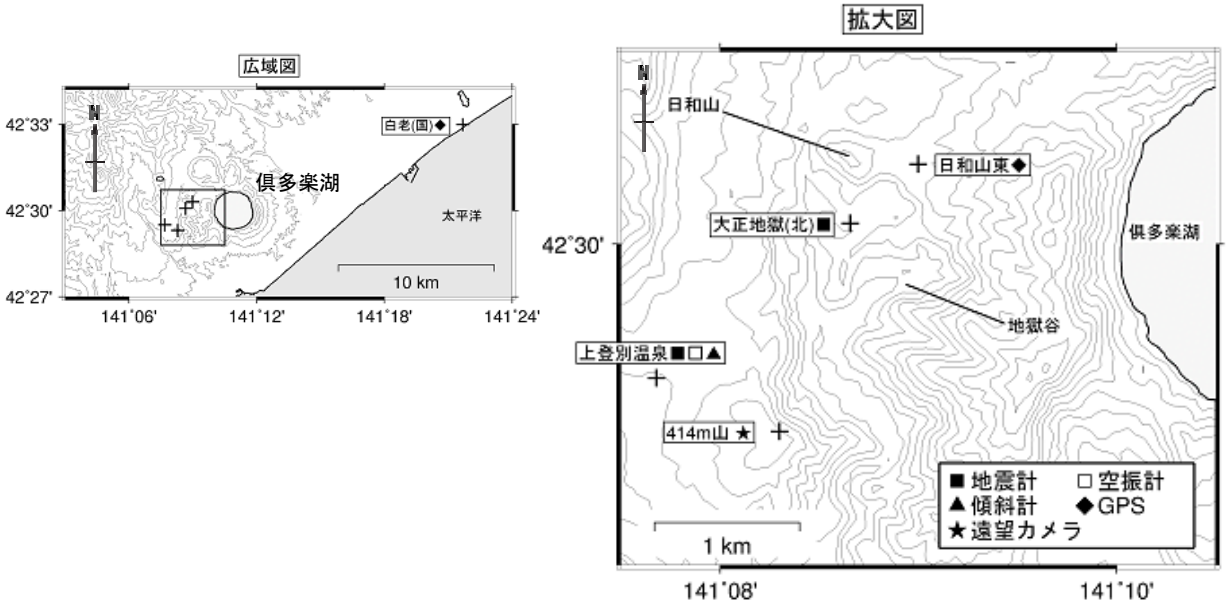

図11　倶多楽　観測点配置図
広域図内の□は拡大図の範囲を示します
＋印は観測点の位置を示します。
気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。
（国）：国土地理院
（北）：北海道大学